

令和元年度第5回  
袋井市行政改革推進委員会 会議録

日 時：令和元年10月31日（木） 18：30～20：30

会 場：袋井市役所4階 庁議室

出席者：小泉祐一郎会長、豊田浩子副会長、加々美道也委員、木村満義委員  
塩崎明子委員、田代貴志委員、田中里佳委員、水野信也委員（8人）

<会議次第>

○協議事項（意見交換）

行政改革の推進に関する提言書（案）について

<会議の概要>

今までの行政改革推進委員会において、意見交換された内容を取りまとめ、提言書（案）を作成したため、提言書の提出に向けて、各委員から提言書（案）についての意見交換を行った。

（委員意見）

- ・同じ仕組みを続けると陳腐化して、効果がなくなってしまう。同じような効果が出る新たな仕組みに変えていかなければならない
- ・失敗しても大丈夫だという雰囲気があるとよい。今回のケースは、やってみないと始まらないので、やってみて効果が無ければやめればよい。
- ・職員も市民と一緒にまちづくりをするという視点も入れて欲しい。行政だけではなく、市民のまちづくりに対する声を反映させる仕組みが必要。
- ・提言を受けての取組をやって終わりではなく、継続してチェックすることが大切。その際に、内部だけでなく、外部の空気を取り入れる仕組みが必要。
- ・職員自身もまちの生活者として、まちを楽しむべき。まちのおもしろいこと、まちに必要なことをリアルに感じ、それを施策に生かす仕組み、人づくりが必要。
- ・取組の評価など、データの利活用については、全ての項目に通じるところがある。袋井市への提言ではあるが、他の市町村が参考にできる取組に繋がってくると良い。
- ・民間や外部組織への派遣や合同研修で民間の空気を感じ、市役所で広めて欲しい。市だけで課題を解決しようとせず、企業と連携して取り組めばやりやすい。
- ・担当部署が主体性をもって取組める行革の仕組みを考えるべき。担当部署が市民とのワークショップを実施し、その内容や結果について行革の委員にアドバイスをもらうなど。